

<news>

とっておき！
「名誉園長の植物園おもしろガイド」出版記念講演会

京都府立植物園再開園50周年を記念して公式ガイドブックが発売されました。出版に当たっての松谷名誉園長のとっておきのこぼれ話をお楽しみに！！

次回の きまぐれ散歩のお知らせ
 6月26日(日)午後1時から
 植物園会館前集合 先着30名
 となっています。
 是非、お越しください。



松谷 茂

<プロフィール>

- ・1975年 京都府入庁
- ・1995年 京都府立植物園勤務
- ・2006年6月 京都府立植物園長就任
- ・2010年5月 京都府立植物園長退任
- 同 京都府立大学客員教授就任

府立植物園公式ガイドブック発刊

再開園50周年を迎えた府立植物園の公式ガイドブック「とっておき名誉園長の植物園おもしろガイド」を2011年4月25日、発売させていただきました。

本を片手に、ホンマモンを体験出来る植物園を歩いていただくと、また新たな発見を感じてもらえるかも知れません。

また、5月21日(土曜日)出版記念講演会を実施させていただき、たくさんの方にお越しいただき、ありがとうございました。今後とも、植物園をよろしく願います。

講演会内容 (講演会でお話しした内容の一部を掲載します。ご一読下さい。)

【はじめに】

- ・退職までの15年間を植物園でお世話になり、その集大成としてこの本が出版できたことはまことに光栄であり嬉しい。
- ・私が書けたのは、生きた植物を栽培し続けている栽培担当の職員のおかげだし、園の運営に陰で支えてくれている事務職員のおかげであり、まず、職員たちに感謝したい。
- ・植物園の運営に協力いただくボランティアグループをはじめ、関係者にも感謝申し上げます。
- ・出版のお声掛けをいただいた京都新聞出版センターさんに感謝申し上げます。
- ・出版のコンセプトは、見て楽しい、思わず行きたくくなるようなそんな本、京都府立植物園の公式ガイドブックであった。
- ・書いているうちに、今年で88年目を迎える京都府立植物園の今があるのは、88年間の決して順風満帆ではなく、むしろ波乱万丈の歴史があるからであって、この事実は忘れてはならず書き残しておく必要があると思い、やや重い内容になったかもしれないが、「歴史編」を記すこととした。本では、後ろのページになるが、本日は、まずはじめに話をしたい。

【歴史】

- ・大正2年頃の風景(写真1)、昭和10年の鴨川大洪水による中賀茂橋流失などの写真で、歴史を話す。
- ・本には無かったが、北海道旭山動物園の名誉園長・現北海道大学客員教授小菅正夫氏ご来園時の対談の光景(写真2)や行幸啓を賜った折の光景なども説明。

【表表紙、裏表紙】

- ・こだわりの一枚。比叡山を背景にした植物園は、大正時代の設計者の意図が入っていたと思い、その一枚を表表紙(写真3)に、裏表紙は最も賑やかな植物園の春の顔。

【エリアの紹介】

本では、21箇所のエリア紹介をしているが、はなしょうぶ池(写真4)、ばら園などにとどめた。

【個々の植物の紹介】

- ・本文ではメインとなる部分だが、植物の持つすさまじいまでの「行き抜く戦略」の、目で見える具体例として、カギカズラ、ヌマスギの気根(写真5)、サイカチなどを紹介。
- ・「シモバシラ」(写真6)の写真は、京都新聞出版センターでご担当いただいた松村さんのこだわりのセレクトで、これは金子園長が自ら撮影された写真を採用した、とのエピソードを披露。

【こぼれ話】

- ・AASやFSのことは、どうしても話しておきたかった。このどちらもが認定されている植物園は世界でも当園だけである!
- ・臭っ、ベスト5では、P65の右上の写真の蠅(写真7)、に注目して欲しい。背中黄色は花粉塊。この花の臭いは、それはそれはとても表現できないほどの恐ろしい臭い。

【裏舞台】

- ・植物園を支えている裏舞台こそ最も大事な根幹。その裏舞台の重要な機能を果たしている部分を、皆さんに知っていただくべく、書き記した。
- ・目立たないが、ただひたすら植物を育て、花を咲かせ、ご来園の皆様にご満足していただけるよう努力している裏舞台を表に出したかった。

【おわりに】

- ・この本をご覧になりながら植物園を散策していただきますと、今まで気づかなかった、今まで見えなかったいろいろな部分が見えてきます。
- ・植物園の楽しみ方が一つ増えた、とっていただきましてとても嬉しく思います。
- ・今後とも、植物園を応援のほど、どうぞよろしく願います。

(写真1)

(写真2)

(写真3)

(写真4)

(写真5)

(写真6)

(写真7)

